

令和2年度 地理歴史科「日本史総合」シラバス	単位数	3単位
	学科・学年・学級	3学年(選択)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 日本の近・現代史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させる。 2 日本の近・現代史で培われた文化についての認識を深めさせる。 3 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	
使用教科書・副教材等	使用教科書:7実教日B312 日本史B新訂版(実教出版) 副教材:最新日本史図表三訂版(第一学習社)、要点整理ゼミナル日本史(浜島書店)	
評価の観点・内容・評価	(1)関心・意欲・態度 ・日本史の展開に対する課題について感心を強めているか。 ・意欲的に課題を追求する態度や客観的に考察しようという態度を身につけているか。 ・国際社会の一員として、主体的に行動し責任を果たそうと考えているか。	・授業への参加状況(取組態度・発言など)・プリント、演習ノートの点検
	(2)思考・判断・表現 ・日本疎に関する課題を自ら見出し、それを総合的な観点から考察しているか。 ・国際的な社会の変化を考慮に入れ、その課題を客観的に判断しているか。 ・追求した過程や結果を、様々な方法を用い適切かつ論理的に表現できるか。	・教科書や資料を使った課題への対応 ・定期考査
	(3)資料活用の技能 ・グラフや表、図版、地図などの資料を読み取り、それを基に思考を展開することができているか。	・教科書や資料を使った課題への対応 ・定期考査
	(4)知識・理解 ・日本史の基本的な事柄を、世界史的な視野に基づき理解し身につけているか。	・定期考査 ・小テスト

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	備考	時数	考査範囲
				学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動との関連など		
第1学期	授業オリエンテーションならびに「幕藩体制の動揺」	4	1 欧米列強のアジア進出とその対応の変化が幕藩体制や鎖国制に及ぼした影響について考えさせる。	第9章近代への転換の「開国」にいたる歴史的背景を、VTR教材等で認識させる。	2	1学期中間考査予定範囲
	第9章 近代への転換	5	1. 日本開国の世界史的背景に留意しながら、開国の衝撃を契機として幕末の政治的激動が進行した過程を理解させる。 2. 討幕派の形成から幕府の滅亡にいたる政治過程と、明治新政府による中央主権体制の確立過程について理解させる。 3. 藩閥専制政府のもとで実行された一連の近代化政策の意義を、その問題点とあわせて考察させる。 4. 初期の対外関係の諸相について理解させるとともに、新政府の政策が生み出した様々な国内問題についても理解させる。	第9章は、世界史Bの東アジア・欧米諸国の学習内容と関連させて学習する。また、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。	16	
		6	5. 近代文化の草創期の特質を理解させる。			
	第10章 近代国家の形成		1. 立憲政をめぐる自由民権運動と藩閥政府との対抗関係の歴史を考察し、成立した明治憲法体制の特質を理解させる。 2. 日清・日露の両戦争を世界史的背景をもとに理解し、この間に進行した政治構造の変化について考察させる。 3. 日清・日露の両戦争をへて日本がどのような国際的立場を獲得したのか、その問題点とともに考えさせる。 7 4. 本格的な資本主義経済が成立したことを様々な分野について理解すると同時に、経済と社会の変化がどのような社会的問題を生み出したかについても理解させる。 5. 欧米文化の模倣と導入からはじまった日本の近代文化がどのように展開したのか、様々な分野について考察させる。	第10章は、世界史Bの東アジア・欧米諸国の学習内容および、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。	20	1学期期末考査予定範囲

第2学期	第11章 両大戦間の日本と市民文化	9	1. 第一次世界大戦の原因と経過、その世界史的意義をとらえ、日本が大戦にどのように対応したのか、また、大戦が日本経済に及ぼした影響について考えさせる。	第11章は、世界史Bの第1次世界大戦の学習内容および、政治経済の学習内容とも関連させて学習する。	15	2学期中間 2学期期末 3学期期末 2学期中間 2学期期末 3学期期末 2学期中間 2学期期末 3学期期末
		10	2. 第一次世界大戦が日本の社会に及ぼした変化を明らかにし、また、戦間期の世界の構造の特質について理解させる。 3. 第1次護憲運動から第2次護憲運動にいたる政党政治の成立過程を理解すると同時に、政党内閣の内外の課題への対応がどのような特質を有していたか考えさせる。 4. 都市化と中産階級の成長を背景に誕生した大正・昭和初期の市民文化の独自性について、具体的事例に即しながら理解を深める。			
	第12章 十五年戦争と日本		1. 満州事変が日本の国際的孤立とまねいたと同時に、政党政治が終焉し軍国主義への道に進む契機となったことを理解させる。 2. 軍国主義化が進展する中で日中戦争が勃発し、戦争の長期化が軍国主義のもとで総動員体制を進行させたことと枢軸体制の形成に向かわせたことについて理解を深める。 11 3. アジア太平洋戦争の開戦にいたる経緯を当時の国際情勢とあわせて理解するとともに、アジア太平洋戦争の現実について考えさせる。 4. 戦時下の国民生活の実態について具体的な理解を深める。	第12章は、世界史Bの第2次世界大戦の学習内容と関連させて学習する。	14	
第3学期	第13章 現代の日本と新しい文化		1. 非軍事化と民主化を要とする占領政策が戦後日本の政治・社会・経済の基礎を築いたこと、国民が積極的に受け入れることによって戦後改革が実現したことを理解させる。 12 2. 冷戦構造の深まりが占領政策を転換させ、サンフランシスコ講和と安保条約によって現在までおよぼ戦後日本の対外関係の基軸が成立したことを理解させる。 3. 高度経済成長をとげる過程で日本社会が大きく変貌したこと、また、アメリカのアジア政策に協力することによって日本は国際的地位を高めたことについて理解させる。 4. 高度経済成長の終わりとともに、経済摩擦などの新たな課題が生まれ、55年体制の崩壊にいたる政治構造の変化が生じたことを考察させる。 1 5. 冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	第13章は、世界史Bの戦後史の学習内容および、政治経済の国際連合などの学習内容とも関連させて学習する。	18	
	現代の課題		2 現代の課題となっている事柄に焦点を当て、近・現代史と関連づけて考察させていく。	生徒自ら課題を設定し、資料等を用いながら現代の事象を歴史的観点から理解を深めていく。	5	

年間授業時数 90時間